

JISNAS たより

農学知的支援ネットワーク (JISNAS: Japan Intellectual Support Network in Agricultural Sciences) (http://jisnas.com/) は、農学分野における教育・研究・社会貢献等に係わる国際協力活動への参加の意図を有する大学間の連携及び大学と我が国の国際農業研究機関との連携を促進するために、農学系大学が協力して、2009年11月30日に設置されました。文部科学省、農林水産省、国際協力機構 (JICA) 及び国際農林水産業研究センター (JIRCAS) をアドバイザー機関とし、事務局を、現在、名古屋大学農学国際教育協力研究センター (ICCAE) に置いています。今後、本誌において活動を紹介していきますが、まずその第1回として、組織の概要とこれまでの活動・主な取組を紹介します。

組織の概要

- ・ 活動：国内外の大学、関係府省庁及び国際協力実施機関等と協力して次の活動を行う。
 - (1) 国際協力活動実施に必要な業務支援
 - (2) 分散した知識・技術(人的資源)のネットワーク化
 - (3) 研究者、教員のモチベーションの維持・向上
 - (4) ネットワークの活動による受託事業の促進
 - (5) 国際協力活動に対する大学関係者及び一般社会の理解促進
 - (6) その他、本会の目的を達成するために必要な活動
- ・ 会員：農学分野における教育・研究・社会貢献等に係わる国際協力活動への参加の意図を有する大学等の団体及び個人。2011年8月末時点で38団体会員、25個人会員がJISNASに参加。団体会員名は <http://jisnas.com/outline/univ.html> で公開。
- ・ 組織運営体制：最高議決機関として全会員により構成される総会が設置されているとともに、執行機関として運営委員会(表1)が設置。事務局は、現在、ICCAEが担当。

表1 運営委員会

運営委員長	田中 耕司	京都大学次世代研究者育成センタープログラムマネージャー・特任教授
副委員長	山内 章	名古屋大学農学国際教育協力研究センター長・大学院生命農学研究科・教授
運営委員	柏木 純一	北海道大学大学院農学研究院・講師
運営委員	國分 牧衛	東北大学大学院農学研究科・教授
運営委員	板垣 啓四郎	東京農業大学国際食料情報学部・教授
運営委員	石川 智士	東海大学海洋学部・准教授
運営委員	江原 宏	三重大学大学院生物資源学研究科・教授
運営委員	早川 茂	香川大学農学部長・教授
運営委員	緒方 一夫	九州大学熱帯農学研究センター・教授

■ これまでの主な取り組み (2009年11月～2011年8月)

<国際科学技術協力等のプロジェクト形成>

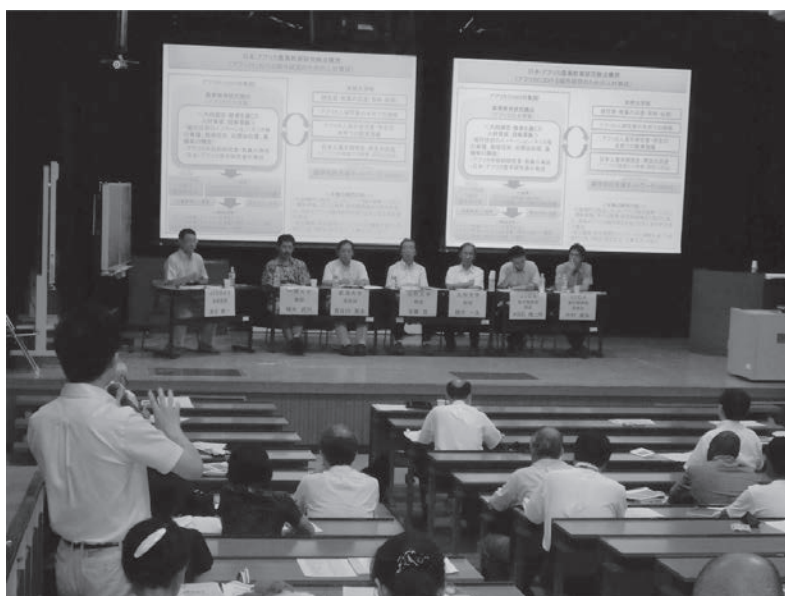
文部科学省「国際協力イニシアティブ」教育協力拠点形成事業の支援を受け、海外支援ニーズ調査を実施し、メンバー機関が地球規模課題対応国際科学技術協力事業(SATREPS)、二国間共同交流事業等を形成した。

また、JISNAS ネットワークの活用を前提としたJICA 課題別研修事業「アフリカ地域 稲作振興のための中核的農学研究者の育成」の提案が採択され、JISNAS 事務局の調整により、名古屋大学、新潟大学および山形大学が共同で2012年度より実施する予定。本研修では、JISNASのネットワーク力を活かし、個々の研修員の研修ニーズと会員大学が有する知的援助リソースのマッチングを図ることにより、研修員の個別ニーズに合ったきめ細やかな研修を提供することを目指しており、集団型の本邦研修事業の質を向上する協力アプローチとして期待されている。(注：同研修は2011年度実施案件として採択されたものの、2011年3月の東日本大震災の影響により、2012年度からの実施に延期した。)

<国際協力人材の育成>

JICA と共同で、2011年7月14日、JICA-JISNAS フォーラム「アフリカ稲作開発を担う人材育成と日本の協力について」を東京農業大学で開催し、「日本-アフリカ農業教育研究拠点構想」(図1参照)をテーマに、アフリカ稲作分野の人材育成に関する課題と我が国の取り組み、同拠点構想の実現に向けた進め方、大学とJICAの連携のあり方について、JICA、大学間で活発な議論を交わした。同構想では、アフリカ人の人材育成のみならず、開発現場における教育・研究実践機会の提供を通じて、将来のアフリカ稲作研究を担う日本人若手研究者の育成を目指している。

また、社団法人海外コンサルティング企業協会(ECFA)からの支援を受け、学生を主な対象とした「開発コンサルタント業務出前講座」の実施を企画・調整した。JISNAS 事務局の支援を受け、ICCAEは2011年6月29日、出前講座を開催した。学内外の50名を超える参加があり、参加した学生から「開発援助関係者の生の声を聞ける機会はめったになく、是非継続的に実施して欲しい」、「本セミナーの開催についてもっと積極的に広報した方が良い」といった意見がでるなど大きな反響があった。



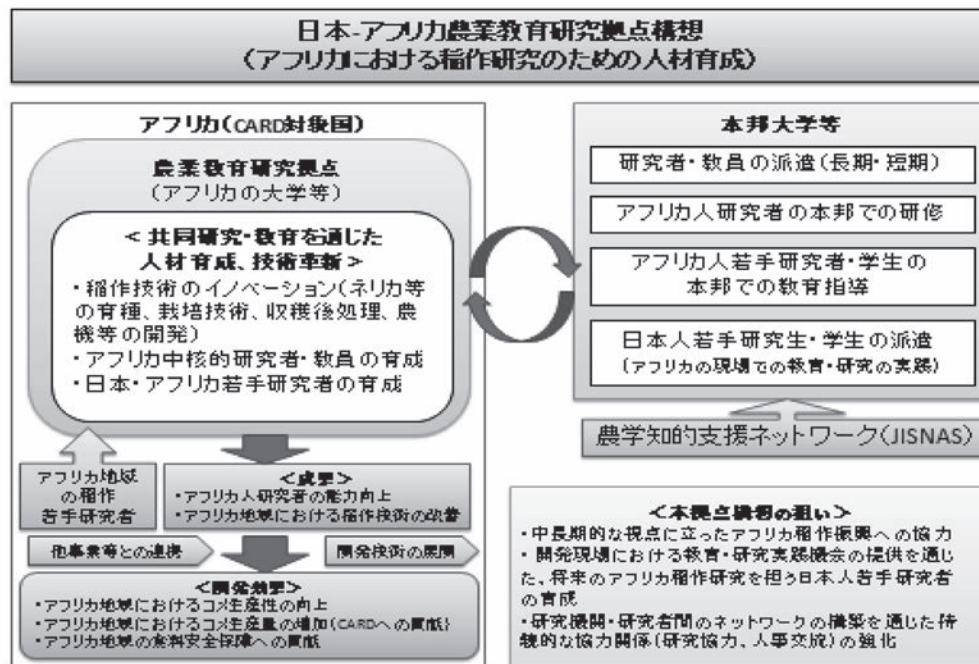


図1

<国際協力活動への提言>

国内の知的援助リソースと海外の支援ニーズの調査を行い、同調査結果に基づく農学国際教育協力への提言を纏めた(<http://jisnas.com/files/IReNe2010.pdf>)。また、JICA「アフガニスタン未来への架け橋・中核人材育成」プロジェクトに対する会員大学からの意見を取りまとめ、文部科学省及びJICAに対し意見具申書を提出した。

<研究ジャーナル：農学国際協力>

JISNASは、ICCAEから依頼を受け、編集委員会を設置し、「農学国際協力(Journal of International Cooperation for Agricultural Development)」誌の企画・編集を実施。第1号は2011年10月発行予定(本誌)。

<国際協力活動推進のための情報共有>

国内関係機関からの公式・非公式な事業募集、大学人材に対する照会及びその他国際協力に係わる関連情報を、JISNASホームページ(<http://jisnas.com/index.html>)及び会員向けニュースレター「JISNAS便り」(不定期メール送信、月1、2回)を通じて、会員間で共有した。

今後の取り組みの方向性

国際社会で活躍できる我が国人材の育成は急務であり、またそれこそ我が国大学の使命であるとの認識のもと、これまでの国際科学技術協力等のプロジェクト形成への取り組みに加え、今後は我が国大学の国際協力人材育成への取り組み支援を強化したいと考えている。具体的には、教育活動の一環としての大学院生の青年海外協力隊グループ派遣事業の形成(JICAとの連携強化)や海外実地研修の優良事例の共有などを進め、大学院在学中に海外での研究経験等を積極的に支援したいと考えている。